

アルファ・ウイン 企業調査レポート

ピー・シー・エー株式会社

(9629 東証プライム)

発行日：2023年2月6日

アルファ・ウイン 調査部
<http://www.awincap.com/>

● 決算速報

◆ 基幹業務用ソフトウェアに特化した專業大手、クラウドで先行し業界NO. 1

- ・ピー・シー・エー株式会社（以下、同社）グループは、独自に開発した業務用パッケージソフト（会計、販売管理・仕入在庫管理、給与・人事、就業管理、勤怠管理など）を、主に中小企業向けにオンプレミスやクラウドにて提供し、保守サービスを行っている。企業の円滑な経営・運営をサポートする「マネジメントサポート・カンパニー」として社会に貢献することを使命としている。
- ・業務用ソフトのクラウド（PCA クラウド）では先行し、業界 NO1 の実績を誇る。ストックビジネスモデルへの転換が奏功し、経営の安定性と収益力が大幅に向上した。
- ・同社グループではコロナ禍の環境下、在宅勤務・時差出勤を踏まえて、ユーザー企業の業務改善につながる製品サービスを提供し、クラウド&ソリューションサービスを中心に事業を展開している。

◆ 今期・第3四半期決算～製品特需の反動減が継続、減収減益

<Q3 累計：決算概要>

- ・同社の2023/3期・第3四半期累計業績（Q3累計：2022/4-12月、以下Q1：4-6月、Q2：7-9月、Q3：10-12月、Q4：1-3月）は、売上高9,533百万円（前年同期比＝YOY：△6.0%減、以下同様）、営業利益1,340百万円（同△47.7%減）、経常利益1,372百万円（同△47.2%減）、当期純利益824百万円（同△63.6%減）と、前年同期比では減収、並びに大幅な減益となった（図表1）。製品の更新特需の反動減による減収と、先行投資、並びにインフレによるコストの増加が利益率の低下を招き、その主たる要因である。
- ・上方修正後（詳細は後述、P3）の通期の会社計画に対する今期Q3累計の進捗率は、売上高では73.3%、営業利益では96.3%、当期利益では102.0%と高い水準である。

【図表1】第3四半期累計の業績

第3四半期・累計業績		2022/3：第3四半期累計	2023/3：第3四半期累計	増減額	増減率	構成比
単位：百万円		2021年4-12月	2022年4-12月	百万円	%	%
連結売上		10,144	9,533	-611	-6.0	100.0
種類別 売上区分	製品	2,463	865	-1,598	-64.9	9.1
	商品	357	432	75	21.0	4.5
	保守サービス*	2,479	2,488	9	0.3	26.1
	クラウドサービス*	4,044	4,372	328	8.1	45.9
	その他営業収入	799	1,375	576	72.1	14.4
粗利		6,790	5,976	-814	-12.0	
	粗利率（%）	66.9	62.7	-4.2		
販売管理費		4,227	4,635	408	9.7	
	売上高販管比率（%）	41.7	48.6	7.0		
営業利益		2,563	1,340	-1,223	-47.7	
	営業利益率（%）	25.3	14.1	-11.2		
経常利益		2,599	1,372	-1,227	-47.2	
	経常利益率（%）	25.6	14.4	-11.2		
当期利益		2,268	824	-1,444	-63.6	
	当期利益率（%）	22.4	8.6	-13.7		

（出所）決算短信に基づきアルファ・ウイン調査部が作成

ショートレポート

1/7

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

<Q3 累計:種類別売上高>

- ・種類別売上高（同社が開示している売上高区分）は、前年同期比では製品のみが減収となった。その他営業収入を中心に、クラウドサービス、商品、保守サービスが増収となったが、製品の減収をカバーするには至らなかった。
- ・種類別売上高の実績は、以下の通りである（いずれも Q3 累計に関するコメント）。

1. 製品（従来型のパッケージソフトウェア：オンプレミス）は、2021 年 12 月にサポートを終了した「PCA X シリーズ」の前倒しの更新需要が、前上期を中心に発生し（DX シリーズへのシフト）、今期 Q3（累計）はこの反動減により、売上高が（前期 Q3⇒今期 Q3 の順に、以下同順）、2,463 百万円⇒865 百万円（YOY：△1,598 百万円、△64.9%減、構成比 24.3%⇒9.1%）へと大幅に減少した。種類別では製品の利益率は高く、かつ減収金額が大きいいため、全体の収益を押し下げたと推測される。
2. デジタル化によるペーパーレスの流れが継続しているが、商品（帳票等）は給与明細などの需要が堅調であり、357 百万円⇒432 百万円（YOY：+75 百万円増、+21.0%増、構成比 3.5%⇒4.5%）と増収となった。
3. 保守サービスでは、オンプレ（製品）の減収とクラウドへのシフトとにより、売上高は 2,479 百万円⇒2,488 百万円（YOY：+9 百万円、+0.3%増）と微増収となった。
4. クラウドサービス売上高は 4,372 百万円と、全種類別中では最大の構成比率（45.9%）となっている。保守サービスの売上高構成比率（26.1%）と合わせると、ストックビジネスの売上高構成比率は 72.0%を占める。両ビジネスは継続性と限界利益率が高いことから、売上高・利益の両面で、引き続き同社の業績の安定化に大きく貢献していると考えられる。

クラウド売上高は、前期 Q3（累計）が前年同期比+35.6%の増加であったのに対し、今期 Q3（累計）は、同+8.1%の増加と増収率が鈍化している。クラウドサービスの導入が進み規模が拡大してきたことや、前期に製品からクラウドへの移行特需も一部あり、今期はこの反動も影響していると考えられる。

クラウド利用法人数（ストック）は、年度別では 2019 年 3 月に 12,313 社、2020 年 3 月に 14,388 社（YOY：+2,075 増）、2021 年 3 月に 16,444 社（同+2,056 増）、2022 年 3 月末で 19,152 社（同+2,708 増）、同 6 月末で 19,441 社（前年は開示無し）、同 9 月末 19,853 社（同+2,608 増）、同 12 月末 20,406 社（同+1,828 増）と増加し 2 万社を突破した。

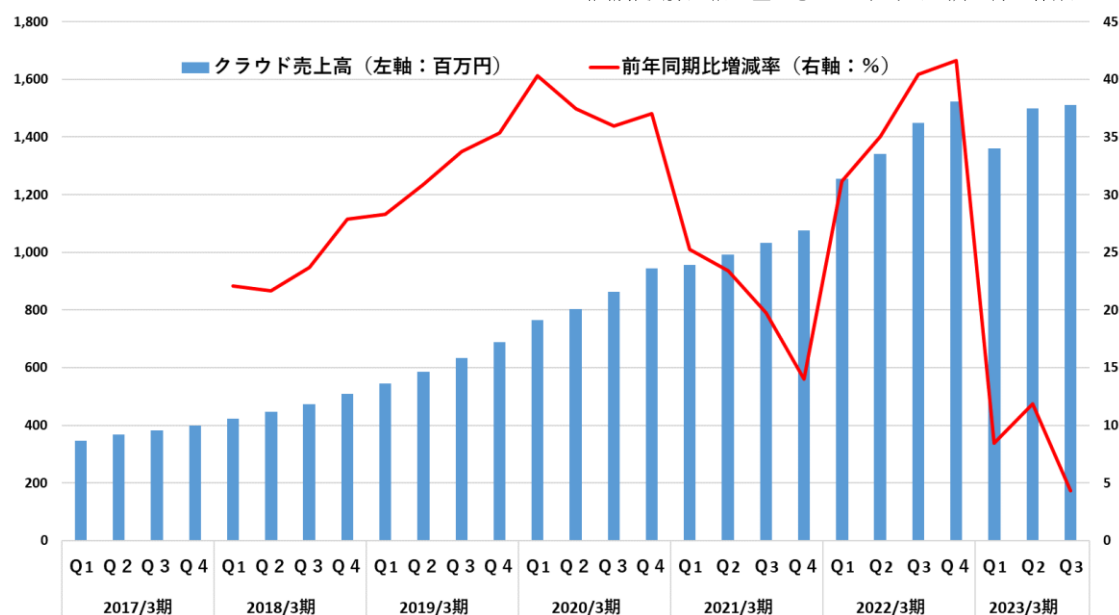
なお、前年同期比で利用法人の増加数は一時期よりも鈍化している。但し、直前四半期対比（QOQ）では、前期 Q3⇒前期 Q4⇒今期 Q1⇒今期 Q2⇒今期 Q3 の順に、+793 社⇒+574 社⇒+289 社⇒+412 社⇒+553 社と増加数は反転してきている。

また、クラウドの四半期売上高（3 ヶ月間）は、P3-図表 2 のように堅調に推移しているが、前年同期比での増収率は低下傾向にある。

5. その他営業収入の売上高は、799 百万円⇒1,375 百万円（YOY：+72.1%増）と大きく伸長した。DX 関連等の他社製品の販売が好調であった。

【図表2】クラウド売上高の四半期別推移

(出所) 決算短信に基づきアルファ・ウイン調査部が作成



＜Q3 累計：利益＞

- ・限界利益率が高いビジネスモデルであるため売上高の変動が、利益率や利益の増減に大きな影響を与える。今期 Q3（累計）は、好採算である製品の大幅な減収、並びに収益性が相対的に低いその他営業収入の大幅な増収により、売上高構成比が大きく変化した。プロダクトミックスの悪化やコストの増加により、粗利率は前期 Q3（累計）の 66.9%から今期 Q3（累計）には 62.7%へと 4.2 ポイント低下した (P1-図表 1)。
- ・なお、売上高は前年同期比で△6.0%の減収となったが、販売管理費は人件費や開発費等のコストの増加により、前年同期比+408 百万円、+9.7%の増加となった。この結果、売上高販管費率は 41.7%⇒48.6%と 7.0 ポイント上昇し、営業利益率は 25.3%⇒14.1%へと大幅に低下した（△11.2 ポイントの悪化）。因みに、同社による通期の営業利益率の前提は 10.7%であるが、Q3（累計）の実績はこれを上回っている。
- ・前期 Q3（累計）には、投資有価証券売却益を特別利益に 1,111 百万円計上したが、今期 Q3（累計）には営業外、及び特別損益に大きな発生項目はなく、営業利益と比較し当期利益の減益率は拡大した。

＜バランスシート＞

- ・今期 Q3 末（2022 年 12 月）のバランスシートは、前期末（同年 3 月）と比較し大きな変化はない。
- ・自己資本比率は 59.4%、流動比率は 215.8%と高水準であり、財務体質は引き続き良好である。
- ・なお、同社のビジネスはキャッシュカウで、年商を上回る現預金は年々積みあがってきており（2022/3 末：161 億円⇒2022/12 末：168 億円、以下同順）、資金効率の改善と成長に向けた投資戦略の実行、次の収益の柱となるビジネスの育成が課題である。
- ・また、契約負債（従来の前受収益等：クラウドなどのサブスクリプション契約において、提供していない役務に対し前払いを受けた対価）は、クラウドの伸びに伴い、約 73 億円⇒約 77 億円と増加している。

◆今期の業績見通し

＜今期・通期の業績予想＞上方修正を発表、配当を増額修正・自己株式を消却

- ・同社は、Q3 決算発表時（2023 年 1 月 30 日）に期初発表の通期の業績見通しを、連結、単独ともに上方修正した (P4-図表 3)。通期（連結、以下同様）では、売上高を（期初予想⇒修正予想、以下同順）12,927 百万円（YOY：△3.4%減）⇒13,008 百万円（同△2.8%減）へと、+80 百万円、+0.6%引き上げた。

ショートレポート

3/7

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

- ・一方、営業利益予想を、1,100 百万円 (同△58.6%減) ⇒1,391 百万円 (同 47.6%減) へと (+291 百万円増、+26.5%増) 大幅に引き上げた。期初のコスト前提が保守的であったことに加え、効率的な費用の支出に努めコスト削減を実施した結果、営業利益率は、8.5%⇒10.8%に改善するとみている。当期利益の予想も同様に 639 百万円 (同△73.0%減) ⇒808 百万円 (同△62.6%減) に増額修正した。
- ・通期でも製品特需の反動減の影響が残り、その他営業収入とクラウドの増収ではカバーできず、全社で減収を想定している。
- ・なお、会社の新予想は、弊社予想と売上高・利益ともほぼ同じであり、大きなサプライズはない。

【図表 3】通期の連結業績予想

(出所) 決算短信に基づきアルファ・ウイン調査部が作成

連 結 (単位: 百万円) 新収益認識基準		2022年3月期	2023年3月期：会社予想					2023年3月期： アルファ・ウイン・キャピタル調査部予想					
		実績	旧予想：CE	新予想：CE	修正幅	新・旧	修正率%	新/旧	当部・予想：E	当部予想-同社	予想乖離率 (E/新CE)	前期比：差額	前期比：増減率
売上高		13,382	12,927	13,008	81		0.6%		12,950	-58	-0.4%	-432	-3.2%
種類別 売上高	製品	2,954	1,399						1,300			-1,654	-56.0%
	商品	439	402						400			-39	-8.9%
	保守サービス	3,316	3,257						3,250			-66	-2.0%
	クラウドサービス	5,568	6,115						6,200			632	11.4%
	その他営業収入	1,103	1,752						1,800			697	63.2%
売上総利益		8,809	7,845						8,000			-809	-9.2%
売上高総利益率		65.8%	60.7%						61.8%			-4.1%	
販売管理費		6,153	6,744						6,700			547	8.9%
販管費比率		46.0%	52.2%						51.7%			5.8%	
営業利益		2,655	1,100	1,391	291		26.5%		1,400	9	0.8%	-1,255	-47.3%
営業利益率		19.8%	8.5%	10.7%	2.2%				10.8%	2.3%		-9.0%	
経常利益		2,697	1,132	1,426	294		26.0%		1,420	-6	-0.5%	-1,277	-47.3%
経常利益率		20.2%	8.8%	11.0%	2.2%				11.0%	2.2%		-9.2%	
親会社株主に帰属する当期純利益		2,367	639	808	169		26.6%		800	-8	-1.3%	-1,567	-66.2%
当期純利益率		17.7%	4.9%	6.2%	1.3%				6.2%	1.2%		-11.5%	
1株当たり年間配当金(円)		24.0	13.0	17.0	4.0				17.0	0.0		-7.0	

【図表 4】四半期別の連結業績 (実績と予想)

(出所) 決算短信に基づきアルファ・ウイン調査部が作成

四半期業績		2022/3第1四半期	2022/3第2四半期	2022/3第3四半期	2022/3第4四半期	2023/3第1四半期	2023/3第2四半期	2023/3第3四半期	2023/3第4四半期	第4四半期 (1-3月)		
単位: 百万円		2021年4-6月	2021年7-9月	2021年10-12月	2022年1-3月	2022年4-6月	2022年7-9月	2022年10-12月	2023年1-3月	増減幅 (今期-前期)	増減率 (今期/前期)	
連結売上		3,328	3,281	3,535	3,238	2,954	3,209	3,370	3,475	237	7.3	
種類別 売上区分	製品	935	783	745	491	241	316	308				
	商品	85	82	190	82	108	114	210				
	保守サービス	820	826	833	837	838	850	800				
	クラウドサービス	1,255	1,340	1,449	1,524	1,361	1,499	1,512				
	その他営業収入	231	250	318	304	404	480	491				
粗利		2,284	2,222	2,284	2,019	1,829	2,083	2,064				
粗利率 (%)		68.6	67.7	64.6	62.4	61.9	64.9	61.2				
販売管理費		1,309	1,444	1,474	1,926	1,520	1,545	1,570				
売上高販管比率 (%)		39.3	44.0	41.7	59.5	51.5	48.1	46.6				
営業利益		975	778	810	92	309	538	493	51	-41	-44.6	
営業利益率 (%)		29.3	23.7	22.9	2.8	10.5	16.8	14.6	1.5			
経常利益		987	795	817	98	315	556	501	54	-44	-44.9	
経常利益率 (%)		29.7	24.2	23.1	3.0	10.7	17.3	14.9	1.6			
当期利益		614	835	819	99	142	352	330	-16	-115	赤字	
当期利益率 (%)		18.4	25.4	23.2	3.1	4.8	11.0	9.8	-0.5			

<今期・第4四半期の業績見通し>

- ・Q4 (2023 年 1-3 月) は、売上高 3,475 百万円 (同 7.3%増) と増収ながら、営業利益は 51 百万円 (同△44.6%減) と前年同期比で半減、当期利益は△16 百万円と前年同期の 99 百万円の黒字から赤字になると予想している (図表 4)。営業利益の主な減益要因は、改正電子帳簿保存法 (以下、電子帳簿保存法) ・インボイス制度を商機と捉え、積極的にプロモーション費用 (2 億円超) を投入するためである。なお、電子帳簿保存法では、2023 年 12 月 31 日に紙での保存が認められる猶予期間が終わる。また、インボイス制度は、2023 年 10 月 1 日からスタートし、いずれも企業規模の大小に関わらず、ほとんどの企業が対応を迫られている法令・制度で、同社にもソフトウェアやサービスの更新需要が期待される (PCA Hub 注 eDOC の拡販など)。(注) PCA Hub：同社が独自に開発した、法人内の重要な業務データやファイルを安心・安全に共有できるオンラインストレージサービス。電子帳簿保存法にも対応。2022 年 3 月のリリース開始後 1 年で、2,000 社の導入が目標。

ショートレポート

4/7

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様が本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

- ・Q4（2023年1-3月）の会社による利益予想はやや保守的と思われる（Q4の営業利益率前提1.5%）、コストコントロール次第では、通期でさらなる上方修正も期待できる。しかし、同社は来期以降の成長に向け先行投資を加速する方針であることから、弊社は、従来の予想（売上高、利益）を継続する。
- ・年間配当を前期の24円/株（記念配当11円/株を含む）から今期には13円/株へ減配（普通配当金を据え置き）すると、同社は期初に計画していた。しかし、2022年12月26日に17円に増額修正すると発表したため、当調査部ではこれに合わせ予想を16円から17円に上方修正した。
- ・従来は、配当金の決定にあたり配当性向を基準としていたが、より安定した配当政策とするため連結純資産配当率を重視し、今回は2.0%を基準に配当することとした。
- ・また、同日で1.1百万株（消却前の発行済株式総数に対し4.8%）の自己株式消却を決定し、28日に実施した。これにより、同社の発行済株式総数は22百万株となり、このうち保有する自己株式数は約2百万株（発行済株式総数に対し9.1%）となる。

<来期以降の予想>

- ・前回レポート（2022年12月19日発行）以降、当調査部では今期以降の業績予想を変えていない（P4-図表3）。
- ・来期以降は製品特需の反動減の影響がなくなり、クラウドの続伸により同社全体の売上高は増収に転じると予想される。一方、研究開発費や人件費、プロモーション費用などの先行投資負担や、インフレによるコスト高が収益を圧迫すると考えられるが、コストコントロールを実施すると思われる、増収効果により増益基調に戻ると予想している。
- ・クラウドの契約（純増数）や同売上高の伸び率の鈍化が懸念されるが、電子帳簿保存法のプラスの効果も考慮した上で、2023/3期の決算発表を踏まえ、中期の業績見通しを再考したい。

◆株価の動向とバリュエーション

<株式の特性とパフォーマンス>

- ・同社はディフェンシブで、サブスクリプションビジネスを展開する内需・小型成長株として評価され、2018年12月以降、TOPIXを大きくアウトパフォームしてきた。
- ・但し、Q3決算発表後（2023年1月30日）は、上方修正による目先の好材料出尽くしなどから売りに押され株価は下落し、主要インデックスをアンダーパフォームしている（P6-図表5）。なお、同社株は、ヒストリカルβ値（過去5年間の月次ベース、対TOPIX：配当込み）が0.62と低く、昨今の金利の低下期待による市場全体の上昇局面では、TOPIXや景気敏感株をアウトパフォームしにくい特性がある。
- ・また、税制や会計基準、OSや製品等の変更などのイベントにより特需が発生し、その前後で同社の業績や株価のボラティリティが大きくなる傾向がある。現時点では、電子帳簿保存法によるインパクトは限定的で、大きな特需は発生しないと推測される。しかし、同社にとってはフォローウインドであり、今後の業績、株価に対する影響を注視していきたい。

<バリュエーション>

- ・同社株と東証プライム全銘柄平均とをバリュエーションで比較すると、今期の会社予想ベース（上方修正後）ではPERを含め、実績PBRや予想配当利回りのいずれにおいても割高感是否めない（P6-図表5）。
- ・また、同業他社であるオービックビジネスコンサルタント（東証プライム上場、コード番号：4733）や、ミロク情報サービス（同：9982）と主要なバリュエーションを比較し、PBRを除き割安感はない。
- ・当調査部での業績予想に基づく、PERは来期予想ベースでは21倍、来々期では16倍前後となり、株価は将来的な業績の回復を、ある程度織り込んでいるとも考えられる。

＜今後の注目点＞

- ・中期的に同社全体の売上高と利益率の変動は、クラウドの成長率や新規事業の成否（PCA Hub シリーズ、PCA サブスク、PCA hyper、ドリームホップ社のメンタルヘルス事業等）、製品販売の動向、コストコントロールに依存している。特に、これまで成長ドライバーであった、クラウドの伸長率に鈍化の傾向が見られ、PCA クラウド利用法人の増加数と四半期ごとの売上高の変化率に注目していきたい。
- ・また、キャッシュリッチのため、自社株買いや増配、M&A を実施する資力と可能性があり、これらは株価に影響を与える重要な要因となる。

【 図表 5 】 主要インデックス、同業他社とのバリュエーション、並びにパフォーマンス比較

2023年2月3日終値	株価・指数	今期予想PER: 倍 (会社計画EPS比)	実績PBR: 倍 (直近四半期末比)	予想配当利回り (単純平均): %	年初来の リターン: %	2023年1月30日、 以降のリターン: %
PCA(東証プライム 9629)	1,266	31.30	1.46	1.34	-5.7	-8.3
OBC(東証プライム 4733)	4,935	30.18	2.72	1.42	14.9	-3.2
MJS(東証プライム 9928)	1,755	14.55	2.52	2.28	21.6	11.5
東証プライム全銘柄平均	1,013.91	13.58	1.16	2.38	4.2	4.4
東証スタンダード全銘柄平均	1,022.87	14.44	0.92	2.23	2.8	-0.1
東証グロース全銘柄平均	993.61	82.15	4.27	0.32	7.1	1.3
TOPIX	1,970.26				4.2	4.4
日経平均	27,509.46	12.78	1.15	2.28	5.4	0.3

(出所)アルファ・ウイン調査部が各社の決算短信、株価データから作成

【 9629 ピー・シー・エー 業種：情報・通信 】 図表 A											
決算期	売上高 (百万円)	前期比 (%)	営業利益 (百万円)	前期比 (%)	経常利益 (百万円)	前期比 (%)	純利益 (百万円)	前期比 (%)	EPS (円)	BPS (円)	配当金 (円)
2019/3	11,439	16.9	1,248	54.7	1,277	53.0	906	105.5	44.42	596.59	10.33
2020/3	14,266	24.7	2,781	122.8	2,808	119.9	1,816	100.4	90.97	675.81	18.00
2021/3	13,308	-6.7	2,314	-16.8	2,340	-16.7	1,668	-8.1	83.50	791.64	11.33
2022/3	15,142	13.8	2,516	8.7	2,542	8.6					
2022/3	13,382	0.6	2,655	14.7	2,697	15.2	2,367	41.9	118.36	847.14	24.00
2023/3	12,927	-3.4	1,100	-58.6	1,132	-58.0	639	-73.0	31.95		13.00
2023/3	13,008	-2.8	1,391	-47.6	1,426	-47.1	808	-62.6	40.45		17.00
2023/3	12,950	-3.2	1,400	-47.3	1,420	-47.3	800	-66.2	40.00	863.09	17.00
2024/3	14,310	10.5	1,870	33.6	1,890	33.1	1,130	41.3	56.50	902.60	18.00
2025/3	15,000		2,500								
2025/3	15,520	8.5	2,550	36.4	2,570	36.0	1,550	37.2	77.50	962.10	19.00

(出所)アルファ・ウイン調査部が作成。

(備考) CE:会社予想、E:アルファ・ウイン調査部予想、旧基準は旧収益認識基準、新基準は新収益認識基準を意味する。

【 株価・バリュエーション指標：9629 ピー・シー・エー 】 図表 B						
項 目	2023/2/3	項 目	PER (倍)	PBR (倍)	配当利回り	配当性向
株 価 (円)	1,226	前期予想	10.4	1.45	2.0%	13.6%
発行済株式数 (千株)	22,000	今期予想	30.6	1.42	1.4%	42.5%
時価総額 (百万円)	26,972	来期予想	21.7	1.36	1.5%	31.9%
潜在株式数 (千株)	0	今期Q3末自己資本比率	59.4%	前期ROE	14.4%	

(出所) アルファ・ウイン調査部が作成。

(備考) 予想は、アルファ・ウイン調査部の予想、発行済株式数は、自己株式消却後。

ショートレポート

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならない、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

【株価チャート（週末値）9629 ピー・シー・エー】 図表C



【パフォーマンス】		
期 間	リターン	対TOPIX
1 ヶ月	-8.6%	-12.8%
3 ヶ月	7.4%	5.3%
6 ヶ月	2.5%	1.0%
12 ヶ月	-22.7%	-26.6%

（備考）株価・指数は、2023年2月3日の終値までを反映。対TOPIXは、同社のパフォーマンスからTOPIXのパフォーマンスを差し引いた相対値。1ヶ月のパフォーマンスは、2022年12月末終値と2023年2月3日終値との比較（他も同様）

ディスクレマー

アルファ・ウイン企業調査レポート（以下、本レポート）は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社（以下、弊社）が作成したものです。

本レポートは、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。弊社は投資家の皆様が本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。

本レポートの内容は、一般に入手可能な公開情報に基づきアナリストの取材等を経て分析し、客観性・中立性を重視した上で作成されたものです。弊社及び本レポートの作成者等の従事者が、掲載企業の有価証券を既に保有していること、あるいは今後において当該有価証券の売買を行う可能性があります。

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。（更新された）最新のレポートは、弊社のホームページ（<http://www.awincap.com/>）にてご覧ください。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。

本レポートの著作権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。本レポートについてのお問い合わせは、電子メール【info@awincap.com】にてお願いいたします。但し、お問い合わせに対し、弊社及び本レポート作成者は返信等の連絡をする義務は負いません。 S2023-0206-0900